

第49回 五商船高専漕艇大会

広島商船が優勝！

富山高専で開催

第49回全国商船高専漕艇大会のカッターの部は、平成26年7月19(土)、20日(日)に富山高等専門学校射水キャンパスの臨海実習場及び前面海域で開催された。富山高専が主管となる当大会は、平成18年7月に富山商船高等専門学校の創立100周年を記念した第41回大会以来となる。この後に、富山商船高専は富山工業高専と高度化再編を行い、富山高等専門学校となり、現在は新高専の一期生が5年生となっている。



また、この臨海実習場は昭和44年に完成し、40数年に渡り、練習船艇の係岸場、カッター等の海技実習の拠点として活躍してきたが、近隣の北陸電力火力発電所の大改修工事(LNG 船穴の増設)に伴い、平成27年4月からは、富山新港の東水路近辺に移設することが決定している。そうしたこともあり、今回の大会は現在の臨海実習場を拠点で行う最後の大会であり、この前面海域をレース海面に設置した。

大会前日の模様は

7月19日(土)は、レース使用艇・オールによる公開練習が行われたが、途中で雷雨により中止を余儀なくされる場面もあった。そして、監督・主将・艇長会議が開催され、翌日のレース艇・コースの決定が成された。練習終了後には、(公財)伏木富山港・海王丸財団のご協力により、はるばる富山に遠征を行って頂いた、鳥羽商船高専、大島商船高専、広島商船高専、弓削商船高専の選手と引率教員を対象とした、帆船「海王丸」の見学会が実施された。



A チーム準優勝の大島商船高専

大会本番が開催される

7月20日(日)は晴天の微風となり、カッター競技の天候としては良好であったが、前日の豪雨の影響のため、レース海面の海水は濁り、港につながる河川から放出したと思える、多くの浮遊草木やゴミが漂流する状況であった。9時に開会式が行われ、10時よりBチームの予選第1レース、第2レースが開催された。この結果、決勝レースには、鳥羽、弓削、広島



弓削商船高専 A チーム (多くのクルーが、1,500m×4本を漕ぐ)

島の3校が駒を進めた。Bチームには、1年生や女子漕手も多く参加していたが、皆、元気に1,500mを漕ぎきっていたのが、非常に頼もしく感じられた。続い

て、11時よりAチームの予選が開催され、各チームの鍛え上げられた漕ぎ、艇長の絶妙な舵さばき、艇指揮の元気なかけ声により、非常に盛りあがった良い接戦が行われた。この結果、決勝レースには、鳥羽、弓削、広島の3校が駒を進めた。

決勝が開催。どのチームが優勝か？

予定通りの、11時半にBチームの決勝レースが行われ、結果は1位：広島（9分40.33秒）、2位：弓削（9分43.14秒）、3位：鳥羽（10分46.36秒）と、1,2位は3秒差の接戦のレースであった。そして、12時にAチームの決勝レースが行われ、結果は1位：広島（9分8.59秒）、2位：大島（9分32.51秒）、3位：弓削（9分56.22秒）であり、今回の大会は、広島商船高専がAチーム、Bチーム共に栄冠を手にした。広島商船高専は、元気なかけ声で、皆が揃った力強い漕ぎを行い、またチーム全体の強い和が、こうした栄冠につながったものと感じる。今回の大会では、商船高専の商船学科の学生に対する、航海訓練所の長期実習システムの変革期であることから、3あるいは4年生が参加できない学校があった。また、最近の学生の運動部離れもあり、各校共に、メンバー編成には非常に苦慮している状況である。特に弓削商船高専では、多くのクルーがA、B両艇を漕いでいたが、前記のように、両チーム共に決勝進出し、1,500mを4本漕ぎ切ったことになるが、これは大きな賞賛に値するものである。また、富山高専Bチームは、漕ぎ手の9人が女子であったが、1,500mを全員がオールを流すこともなく漕ぎきっていて、これも大きな賞賛に値するものである。来年度の大会は、広島商船高専が主管で開催予定であり、この大会での栄冠を目指して、既に各校クルーでは、また新たな努力の日々が始まっているものと思う。

こうして、カッターに熱中する学生達が、この努力の過程で多くのものをつかみ、これを糧に各自の将来に大きく羽ばたいてもらうのを願う次第です。

鳥羽商船 専 A チーム（商船学 4 生が乗船実習で不在であり、3 生中心メンバーで 闘）



主管校である富山高専 A チーム（バックに写るのが新湊大橋）



主管校である富山高専 B チーム

（女子漕ぎ手が9人で健闘）